

病虫害発生予報 第5号(8月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所
TEL 0736(64)2300

< 予報の概要 >

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	いもち病 紋枯病 縞葉枯病 ニカメイガ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ イチモンジセセリ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	やや少 並 並 並 やや少 やや少 並 並 やや少 やや少		ミナキイロアサミウマ ミカンキイロアサミウマ ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ	並 並 やや少 並
			カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアサミウマ ゴマダラカミキリ	並 並 やや多 並 やや多 並
			カキ	炭そ病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フシコナカイガラムシ	並 並 並 並 並
野菜	疫病 モザイク病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 やや少 並	果樹全般	カメムシ類	並

気象予報

1か月予報（予報期間 7月27日～8月26日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >

【気温】近畿地方



【降水量】近畿地方



【日照時間】近畿地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

		月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
8月	和歌山	28.1	和歌山 86
	潮岬	26.7	潮岬 233

I. 水 稲

1. いもち病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀南地域の早期水稲における7月中旬の葉いもちの発病株率は、2.8% (平年12.0%) であった。
- ② 紀北・紀中地域の普通期水稲における7月中旬の葉いもちの発病株率は0.4% (平年4.8%) であった。
- ③ イネいもち病発生予測システム (BLASTAM) によると、いずれのアメダス観測地点においても2日以上の上感染準好適～好適条件の継続は観測されていない。
- ④ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期の追加防除を行う。
- ② 常発地では次年度から罹病性品種の作付を避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀南地域の早期水稲における7月中旬の発病株率は0% (平年3.2%) であった。
- ② 紀北・紀中地域の普通期水稲における7月中旬の発病株率は、0% (平年0.8%) であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼穂期に発病株率5%以上のほ場では、穂ばらみ期に薬剤散布を行う。
- ② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加散布を行う。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀南地域の早期水稲における7月中旬の発病株率は、0% (平年0.0%) であった。
- ② 紀北・紀中地域の普通期水稲における7月中旬の発病株率は0% (平年0.0%) であった。
- ③ 媒介虫であるヒメトビウンカの8月の発生量は並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカの防除を行う。

4. ニカメイガ 第2世代(紀北・紀中地域)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の紀南地域の早期水稲、紀北・紀中地域の普通期水稲では、被害を認めていない(平年25株あたり被害葉数:0.0)。
- ② 4月1半旬から7月4半旬まで、フェロモントラップ(紀の川市)では誘殺されていない(平年0.0頭)。
- ③ 近年、発生が極めて少ない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代幼虫による心枯茎を認めたほ場では、第1世代成虫の予想発蛾

最盛期（平成 8 月 3 半旬頃）から 1 週間後までの間に防除を行う。

5. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7 月中旬の 25 株あたり発生密度は、紀南地域の早期水稲では 25.8 頭（平成 5.0 頭）、紀北・紀中地域の普通期水稲では 8.1 頭（平成 9.4 頭）であった。
- ② 予察灯による 7 月 1 ～ 4 半旬までの誘殺数は、紀の川市 0 頭（平成 11.0 頭）、上富田町 0 頭（平成 0.7 頭）、那智勝浦町 0 頭（平成 1.3 頭）である。

6. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7 月中旬の 25 株あたり発生密度は、紀南地域の早期水稲では 3.3 頭（平成 6.6 頭）、紀北・紀中地域の普通期水稲では 0.0 頭（平成 7.3 頭）と平成よりやや少なかった。
- ② 予察灯による 7 月 1 ～ 4 半旬までの誘殺数は、紀の川市 0 頭（平成 3.8 頭）、上富田町 9 頭（平成 15.7 頭）、那智勝浦町 10 頭（平成 121.7 頭）である。

7. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7 月中旬の 25 株あたり発生密度は、紀南地域の早期水稲では 20.7 頭（平成 55.2 頭）、紀北・紀中地域の普通期水稲では 12.3 頭（平成 78.9 頭）と平成よりやや少なかった。
- ② 予察灯による 6 月 1 半旬～7 月 4 半旬までの誘殺数は、紀の川市 2 頭（平成 224 頭）、上富田町 0 頭（平成 242 頭）、那智勝浦町 3 頭（平成 265 頭）である。

8. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7 月中旬の 25 株あたり発生密度は、紀南地域の早期水稲では 0 頭（平成 0.1 頭）、紀北・紀中地域の普通期水稲では 0.2 頭（平成 0.3 頭）であった。
- ② 予察灯による 6 月 1 半旬～7 月 4 半旬までの誘殺数は、紀の川市 0 頭（平成 1.6 頭）、上富田町 0 頭（平成 0.9 頭）、那智勝浦町 2 頭（平成 2.1 頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8 月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫 4 ～ 5 頭の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

9. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7 月中旬の 25 株あたりツトム数は、紀南地域の早期水稲では 0.5（平成 0.1）、紀北・紀中地域の普通期水稲では 0（平成 0.1）と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8 月上旬の発生に注意し、若齢期の防除に重点を置く。

10. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、紀南地域は1.2葉（平年8.0葉）、紀北・紀中地域は0葉（平年2.3葉）と平年と比べやや少なかった。
- ② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による6月1半旬から7月4半旬までの誘殺数は、0頭（平年4.8頭）であった。なお、平年の初誘殺時期は7月3半旬である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 飛来時期から、第1世代の発蛾最盛期は7月5～6半旬頃と推定される。
- ② 防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤（乳剤、水溶剤、フロアブル等）の場合は第2世代幼虫発生時期（第1世代の発蛾最盛期の7日後）である。
- ③ 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、紀南地域の早期水稻では防除の必要性は低い。

11. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の紀南地域の早期水稻の本田では、捕虫網20回振りによる捕獲虫数が1.3頭（平年10.9頭）と平年よりやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。
- ② 雑草地のイネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂10日前までには場周辺を除草する。
- ③ 出穂後、本田内でホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシなどの飛来を認めたら、乳熟期（出穂10日後）から糊熟期（出穂20日後）に薬剤を散布する。カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期（出穂3日後）にも薬剤散布する（「防除指針」参照）。

II. 野 菜

1. 疫病（トマト、キュウリ、ナス、ピーマン）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 日高地域の露地栽培ミニトマトにおける7月6半旬現在の発生ほ場率は、0%（過去5年間の平均10.0%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。

2. モザイク病（トマト、キュウリ、ナス、ピーマン）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 日高地域の露地栽培ミニトマトにおける発生ほ場率は7月6半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。
- ② 8月のアブラムシ類の発生量は平年よりやや少ないと予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を徹底する。

3. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月4半旬現在、アブラムシ類の発生は認めていない（ワタアブラムシの平年発生ほ場率5.1%、平年寄生葉率0.2%、モモアカアブラムシの平年発生ほ場率2.8%、平年寄生葉率0.1%）。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への7月1～4半旬までの飛来数は、0頭（平年30.0頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 同一薬剤の連用を避ける。

4. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月4半旬現在、カンザワハダニは発生ほ場率30%（平年30%）、寄生葉率11.0%（平年8.5%）で、ナミハダニは発生ほ場率20%（平年12.4%）、寄生葉率3.0%（平年1.4%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性が発達している事例が多い。同一薬剤の連用を避け、系統の異なる複数の殺ダニ剤を交互散布する。

5. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月4半旬現在、発生ほ場率30%（平年26%）、発生葉率7.0%（平年5.0%）と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ナスでは、選別時に被害果実を認めたら防除を始める。
 - ② 施設では、栽培終了後7～10日間ハウスの蒸し込みを行い、その後残さを処理し、後作の発生源にならないようにする。

6. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月4半旬現在、発生ほ場率10%（平年1.9%）、発生葉率0.5%（平年0.2%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
 - ② 施設では栽培終了後7～10日間ハウスの蒸し込みを行い、その後残さを処理し、後作の発生源にならないようにする。

7. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月4半旬現在、発生を認めていない（平年発生ほ場率4.8%、平年発生葉率0.2%）。
 - ② フェロモントラップによる7月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市14頭（平年25.9頭）、和歌山市92頭（過去2年の平均115頭）、御坊市84頭（平年156頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 中・老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢幼虫期（網目状の被害葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - ② 抑制エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～

50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

8. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる7月1～4半旬までの誘殺数は、紀の川市0頭（平年10.2頭）、御坊市64頭（平年89.2頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ハスモンヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北（海南市下津）、紀中、紀南（田辺市以北）の7月4半旬の発病園率は34%（平年49%）、発病度は1.3（平年2.3）であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 秋雨時期における後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。

② 枯枝や剪定枝の除去を徹底する。

③ 過乾燥等で樹勢が衰弱すると枯枝の増えるおそれがあるので留意する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北（海南市下津）、紀中、紀南（田辺市以北）の7月4半旬の発病園率は23%（平年29%）であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防風対策に努め、台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。

② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。幼木、高接樹ではミカンハモグリガの防除も徹底する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 紀北（海南市下津）、紀中、紀南（田辺市以北）の7月4半旬の発生園率は55%（平年39%）と平年よりやや多かった。寄生葉率は11.9%（平年17.0%）とやや少ないものの、100葉あたり雌成虫数は56頭（平年28頭）と多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤を年間に2回以上使用しないことが重要である。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 第2世代2令幼虫最盛期 8月4半旬（平年並）
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）での第1世代成虫の初発時期は平年並であった。
- ② 気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生園では、8月中旬に散布むらのないように葉裏まで十分量散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 紀北（海南市下津）、紀中、紀南（田辺市以北）の7月4半旬の被害園率は33%（平年16%）と平年より多かったが、アザミウマの発生は確認できなかった。
- ② 気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 寄生果率が15%以上または100果あたり15頭以上に達すると防除する。
- ② 発生園およびイヌマキやサンゴジュの隣接園では防除を徹底する。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 産卵量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）、各地域における初発の時期はやや早かったものの発生量は平年並であった。また、7月の成虫の発生量はやや少なかった。
- ② 発生源となる放任園や管理不良園が増加している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 成虫の捕殺に努め、放任園周辺など発生が多い園では登録のある薬剤の樹幹から株元への散布を行う。

<カ キ>

1. 炭そ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域では7月4半旬現在、果実の病斑は認められなかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や果実がみられる場合は剪除する。
- ② 夕立が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近した場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
- ③ 密植園の風通しの悪い場所は発病しやすいので、園内の通風・採光をはかり、薬剤をかかりやすくする。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域における7月4半旬現在の「富有」の発病葉率は10.1%（平年12.1%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらって丁寧に散布する。
- ② 盛夏期には病勢がおさまるが、分生子は飛散するので防除が必要である。

3. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域では7月4半旬現在、発病葉は認められなかった。
- ② 同地域では前年10月の「富有」における円星落葉病の発病葉率は8.8%（平年3.6%）と平年よりやや多かった。角斑落葉病の発病葉率は17.9%（平年22.7%）と平年よりやや少なかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本病は樹勢が低下すると発病が助長される。
 - ② 角斑落葉病は二次伝染を繰り返すので、多発園では発病後も防除を励行する。

4. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域における7月4半旬の「富有」の寄生果率は8.6%（平年12.6%）、「平核無」・「刀根早生」の寄生果率は1.1%（平年2.5%）と平年並であった。
- (3) 防除上注意すべき諸点
 - ① 8月上中旬が1齢幼虫の発生時期にあたり、防除適期である。
 - ② 薬剤が果実に十分かかるよう茎葉の混み合いをなくし、丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県内全域での本年の越冬量は、0.06頭（平年0.42頭（極端に越冬量が多かった年を除く））と、平年より少なかった。
 - ② 県北部（紀の川市粉河）及び県南部（みなべ町東本庄）の予察灯での7月期の誘殺数は平年並の水準となっている。
 - ③ ヒノキ花粉飛散数比（本年／前年）は7.9であり、カメムシの発生量に対して餌となる球果の量が多くなると考えられるため、果樹園への飛来は少ないと考えられる。
- (3) 防除上注意すべき諸点
 - ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。
 - ② 園内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。